

令和7年度

中学生の「税についての作文」

税に関する高校生の作文

作品集



飯能市イメージキャラクター 夢馬（むーま）

飯能市租税教育推進協議会

～令和7年度 作文入選作品の紹介～

飯能市租税教育推進協議会では、租税教育の一環として中学生・高校生に税を身近なものにとらえ、租税の役割や使われ方について正しい知識と理解を深めていただくため、税に関する作文を募集したところ、多くのご応募をいただきました。審査の結果による入選作品を紹介しますので、ご活用いただき、今後とも本事業に対し、一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、近年の応募数及び入選作品数は以下のとおりとなっております。

○応募数及び入選作品数の推移○

【中学生】

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
応募数	325編	302編	203編	200編	191編
入選作品数	11編	6編	5編	7編	6編

【高校生】

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
応募数	211編	246編	234編	246編	257編
入選作品数	5編	4編	4編	10編	6編

※ 作品集の掲載に同意が得られなかった方の作品は掲載しておりません。

目次

（中学生の税についての作文）

【埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞】 税金で考える私の一日	飯能第一中学校 三年 大平 楓	・ ・ ・ 1
【埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞】 税金を下げると	飯能第一中学校 三年 潮田 珠久	・ ・ ・ 2
【所沢税務署長賞】 税金の意味	飯能第一中学校 三年 福士 陽菜	・ ・ ・ 3
【所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞】 税で生きる	飯能第一中学校 三年 木村 心香	・ ・ ・ 4
【所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会優秀賞】 税金と公務員	飯能第一中学校 三年 塚田 結心	・ ・ ・ 5
【所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会優秀賞】 「あたり前の生活の中に」	飯能第一中学校 三年 師岡 巴菜	・ ・ ・ 6
【飯能市長賞】 見えない力に支えられて	飯能西中学校 三年 中島 慧	・ ・ ・ 7
【飯能県税事務所長賞】 給付金か消費税減税か	飯能第一中学校 三年 大草 里緒	・ ・ ・ 8

【飯能市納税貯蓄組合組合長賞】
私たちの暮らしと税

飯能第一中学校

三年

小金井

玲菜

・
・
・

9

【飯能市納税貯蓄組合組合長賞】
税のありがたさ

飯能西中学校

三年

田中

紫桜

・
・
・

10

(高校生の税に関する作文)

【関東信越税理士会 埼玉県支部連合会 会長賞】
会計係から学んだ税の大切さ

聖望学園高等学校

二年

萩原

さくら

・
・
・

11

【埼玉県租税教育推進協議会 会長賞】
税金から考えるこれからの社会

聖望学園高等学校

二年

神岡

帆乃佳

・
・
・

12

【所沢税務署長賞】
税金について

聖望学園高等学校

二年

伊藤

理沙子

・
・
・

13

【飯能市長賞】
支えられる側から支える側へ

聖望学園高等学校

二年

本橋

萌紗

・
・
・

14

【飯能県税事務所長賞】
未来を支える税金の力

聖望学園高等学校

二年

今江

心優

・
・
・

15

税金で考える私の一日

飯能市立飯能第一中学校

三年 大平 楓

朝、目を覚まし、パンを食べる。パンはスーパーで買った飲食料品軽減税率八パーセントのパンだ。サラダは祖父が家庭菜園で育てた野菜、税金は掛かっていない。でも、野菜の苗や種を購入したときに消費税を払っているだろう。

制服に袖を通す。制服も靴下も靴もリュックも消費税を払って購入している。リュックの中の教科書は税金を使用し無償で用意してもらった大切なものである。国民の税金を使い配られた教科書の肖像画に落書きをするなんて言語道断である。

母に見送られ玄関を出る。玄関前には軽自動車税を納めた車が停まっている。通学路はガードレールで守られ、大きな交差点には信号がついている。このように道路は税金を使い人々が安全に通行できるよう整備されている。

学校に到着する。学校の校舎も税金により建てられ管理されている。教室に入り自分の机に座る。机も椅子も黒板も、ありとあらゆるものに税金が使われている。理科室の実験器具や体育館、ボールやマットなどにも税金が使われている。折ってしまった家庭科室のミシンの針にももちろん税金が使われている。これらの設備を生徒の保護者が負担したらどうなるのだろう。調べてみると公立中学校の生徒一人あたり年間百万円以上もの教育費がかかっているらしい。多額の税金

で作られているこの恵まれた環境に感謝してしっかり学業に専念しなくては強く思う。

苦手の授業もクリアし、先生に挨拶をして学校をあとにする。先生のお給料も税金からまかなわれている。帰宅途中、サイレンを鳴らした救急車とすれ違う。救急車や消防車、警察官など私たちを守ってくれる仕事にも税金は使われている。

家に着くと丁度母も買い物から帰宅したところだった。スーパーで沢山買い物をしたようだ。おそらくほとんどの物が軽減税率に該当するだろう。

お風呂から上がると、父が缶ビールを飲んでいた。この缶ビールには軽減税率は該当しないが酒類に課せられる国税の酒税が支払われている。このほろ酔い気分の陽気な父も酒税という名の税金をしっかりと納めているんだな。

私たちの生活と税金は切っても切り離せないと思っただ。納税は国民みんなの支え合いのシステムであり、安心して暮らすために必要不可欠である。税金の使い道を学び、より良い暮らしのためにしっかりと納税しようと思った。

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

税金を下げる

飯能市立飯能第一中学校

三年 潮田 珠久

七月二十日、参議院議員選挙が行われました。その時、立候補している人たちが「税金を下げます」と言っているのをよく目にします。たしかに、税金が少なくなれば、今よりお金が自由に使えてうれしいかもしれません。でも、最近私は「税金って、下げたらどうなってしまうの？」と疑問に思うようになりました。

私たちが使っている道路、学校、病院、警察や消防など、どれも税金で支えられています。学校のエアコンも、教科書も、災害への備えも、すべて税金のおかげです。税金がなければ、安心して暮らすことができません。もし税金が下げられたら、国や地域に入ってくるお金は減ります。その分、使えるお金も減ることになります。すると、必要などころにお金が回らなくなってしまうかもしれません。「教育費を減らす」「福祉を削る」「災害対策の予算が足りない」といったことが起こったら、どうなるのでしょうか。災害の多い日本では、地震や台風に備えるためのインフラ整備も重要です。税金が足りなければ、被害が広がったときに、助けが間に合わなくなるかもしれません。

それでも「税を下げる」という言葉は、聞こえがよくて人氣が出やすいのかもしれませんが。負担が減るという点だけに注目すると、多くの人がその主張に賛成したくなるのも分か

ります。でも私は、ただ「下げる」だけでなく、税金をきちんと使い、必要などころに届ける、「何に使って、どのように工夫していくのか」をしっかりと考えてくれる人を選ぶことが大切だと思います。

税金を下げるという約束をしている人を見かけたら、「本当にできるのかな？」と少し気になります。税金を下げることには良い面もあるけれど、その分どんな悪い面があるのかも考えてみたくなりました。何にどれくらい税金を使うのか、もっと知っていったら、選挙のときに誰を応援したいかも考えられるようになる気がします。

私たち中学生は、まだ選挙で投票することはできません。でも、家族の話の聞いたり、ニュースを見たりして、政治や税金について考えることはできます。そして将来、投票できるようになったときには、自分でしっかり考えて、一票を大切にしたいと思います。

所沢税務署長賞

税金の意味

飯能市立飯能第一中学校

三年 福 士 陽 菜

日本では毎年のように地震や台風、大雨などの災害が人々の生活を奪っていく。そんな中で、被災地に駆けつけ、救援物資を配り、道路を復旧させる人たちがいる。そんな活動を支えているのが「税金」である。

堤防や防波堤の整備、避難所の建設、消防車や救急車の配備、災害時の救援物資や仮設住宅、これらは全て税金で成り立っている。もし税金がなかったら、壊れてしまった橋はそのまま、避難所には毛布も水も届かないかもしれないのだ。まず消防や自衛隊の活動資金が足りず、救助に向かうことができないかもしれない。災害は誰にも突然やってくる。だからこそ、国全体で助け合っていくことが必要なのだ。私は「税金」が道路や学校を作るために使われるというぐらいのことしか知らない。中学生にはあまり関わることはない税金。でも税金の大切さは知っておくべきである。

東日本大震災や熊本地震では税金が被災地の復興などのために使われた。そしてたくさんの方の命が救われている。税金という形で、全国の人々がお金を出し合うからこそ、今の日本で大きな災害に立ち向かうことができるのだ。今までの私は、税金は単なる義務であり、何に使われていようが納めなくてはいけないもの、と考えていた。実際、全ての税金が全員の納得する形で使われている、とは考えにくいが納めな

くてはいけけないのは変わらない。ただ、それは未来の自分のためであることを知った。いつ災害が起こるかわからないこの身で、普段通りに生活できている。それはもしもの時は消防、自衛隊が助けに来てくれるという税金による安心があるからかもしれない。最近日本では、大きな災害がくるといわれている。自分が被災するかもしれない。そんな時、助けてくれるのは税金だ。私たち中学生はまだ本格的には税金を納めていない。でも将来大人になったときに税の使い道や意味を知らず「納めなくてはいけけないもの」として納めるのはもったいないと思う。自分のためでもあり、みんなのためである。国民としての意識を生み出すものの一つでもある。それを知るだけでも、税金へのイメージはきつと良い方向へ変わる。そして正しい知識をみんながつけることで、間違った使い方を間違っていると気づけるのではないだろうか。

災害は避けられないかもしれない。でも、その大切さを知ることにはできる。これからも正しい知識をつけて、税金に向き合っていきたい。

所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞

税で生きる

飯能市立飯能第一中学校

三年 木村 心香

私たちが生活しているまちにはたくさん税で支えられているところがある。たとえばふだん学校に行き、使っている教科書、机、いすはすべて税金によって使っているものになる。私たちは税金のおかげで豊かな生活が送れているのだ。

私の住むまち飯能市はたくさん森林や山がある。そんな森林を豊かにしてくれるのが2024年から始まった「森林環境税」だ。世界中で地球温暖化が進むなか、日本では地域環境保全のために「地域グリーンニューデール基金」を創設して地方自治体を支援するなど対策を進めてきた。しかし、森林保護の財源が足りない課題があり、1年前の2024年より「森林環境税」の課題に踏み切ることになった。森林環境税の目的は大きく分けると2つあり、気候変動抑制の国際的な協定「パリ協定」で定めた目標を達成するための地方財源の確保。もう1つは、近年被害が拡大している山林災害を防ぐ森林整備のための財源確保。いずれの目的においても、森林保護が主な使い道になる。日本の国土の約7割は森林でできている。しかしその多くが手入れされずに荒れてきているのが現状だ。木が元気に育たなければ、土砂崩れなどの災害の原因にもなり、水や空気もきれいに保たれない。つまり、森林は私たちの生活を支えている大切な存在だ。その森林を守るためには、やっぱり人の手による管理や間伐が必要にな

る。でもそれにはお金も人手もかかる。だからこそ国民や地域のみんなで少しずつ負担し未来の環境を守っていこうというのが森林環境税の考え方になる。税金というと、あまり良いイメージを持たない人もいるかもしれない。しかし、私はこの森林環境税には森林を守る以外にも意味があると思う。それは、私たちの暮らしを守ることだ。森林に支えられながら生活している国だから、森林を守るとは、自分自身を守ることにつながるのだ。

国民一人一人の森林環境税に対する理解が深まり日本だけではなく世界中の森林を大切に守っていきたいと思う。これから先森林に対しても税に対しても、国民の考えがやさしく未来につながるものになれば、地球温暖化も止められ、自分たちの暮らしもちよきなものになると私は思う。私の暮らし飯能市も、みんなの力でたくさんの人から愛され、緑豊かな、心地良いまちにしていきたいと思う。

所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

税金と公務員

飯能市立能第一中学校

三年 塚田 結心

私は今まで、税金の使い道は道路などの公共事業だったり、健康や生活を守る社会保障費などに使われているという考えを持っていました。ですが、それだけではありませんでした。

小学六年生のときに、学校で「将来の職業について考えよう」という学習があり、親にインタビューをすることになりました。私は、お父さんに職業のことについてたくさん聞きました。私はその話を聞いて職業のことだけでなく、税金に関わることも知れました。私のお父さんは、公務員をやっている給料は税金からもらっていると聞きました。この話を聞いて、私にとって最も身近な税金は消費税だけでなく、親の給料なんだと認識させられました。

このことについてもっと知りたかったのでインターネットで検索してみると、税金の使い道で公務員の人件費が無駄であるという主張をする内容が書かれてありました。それだけでなく、他の記事でも複数の似た言葉を見つけ、心が痛くなりました。私はこの記事を見て、公務員に対して風当たりが強いのではないかと思いました。公務員の給料が税金である以上、業務や仕事を全うするのはあたり前の義務で、それは企業勤めの人と変わらないと思います。私は、公務員の給料が高いのか安いのかという問題ではなく、いかに自分たちが仕事をしていてやりがいを感じられるかというところに注目

していきたいです。また、税金が集まっても公務員がいなければ税金は私たちの元へ公共のサービスとして戻ってきません。なので、私は、公務員という仕事が立派な職業だと思っています。一部の人の意見では、税金がなくては困るという考えもあります。大切なのは税金だけではなく税金を公平に公共サービスに変換する人がいることが重要なのだと思いました。

私は、お父さんの話やインターネットを通じての色々な人の意見を聞いて、今までは私たちの身の周りに税金で作られたものなどがたくさんあり、当たり前だと思っていました。ですが、上下水道の整備や教育に必要な補助金などどれも私たちが生活していくうえで必要で、切り捨てられるものではありません。私たちは税金のことについて、もう一度しっかり向き合う必要があると思います。税金があるからこそ、今私たちが充実して過ごしているわけで、今だから持てる価値観で税の仕組みを学び、来たる将来に向けてそなえるべきだと思っています。

今の時代、テレビやスマートフォンを見れば復興のための増税や年金引き下げなど様々な税に関する情報があふれています。その中で必要な情報を選択し、人の意見にまどわされないように自分で考え、自分の意志を持って税に関わっていかねばならないと思いました。これから私たちは、生活に直結する税金を定められた期限までに納め、税金に対する関心を常に持ち続けられるように、税に関する勉強を若いうちから積み重ねていこうと思いました。

「あたり前の生活の中に」

飯能市立飯能第一中学校

三年 師岡 巴 菜

私は外へ出かけた時、救急車や、消防車、パトカーなどを見かけることがよくあります。これらはタクシーやバスとは違い、いつでもお金を払わずに呼ぶことができます。そこで私は、なぜ救急車などはお金を払わなくて良いのかということに疑問に思いました。

私には、三歳離れた弟がいます。弟は幼児の時、夜中にけいれんが起き、救急車に運ばれたことがあります。なので、なぜ救急車はお金を払わなくて良いのかということに、とても疑問に思いました。

インターネットで調べてみると、これは税金で賄われているとわかりました。また、海外はどうでしょうか。海外では救急車を利用する際、有料である国がほとんどだということがわかりました。日本のように、お金を払わない国は珍しいのです。アメリカでは公的な救急車の場合、基本的に八万円から十五万円の料金がかかり、走行距離や、酸素の使用量などによって追加料金が加算されていくということを知りました。多額な費用がかかるため、このような国では緊急性の低い場合には、タクシーなどを利用することが推奨されているそうです。このようなことから海外の多くの国は、誰もが救急車をすぐに呼ぶことができないと分かります。

以前ニュースで、呼ぶまでもない理由で救急車を呼ぶ患者

が、日本で増えているということを見ました。主な例として「交通手段がないから。」「便利だから。」「などが挙げられていました。私はそれを見て、とても悲しい気持ちになりました。二度目になりますが、日本の救急車は税金によって賄われていて、自分だけのものではありません。日本のような、救急車が完全に無償の国は他に無いため、助かるはずの命が他の国よりも多いはずです。だから私は、救急車が無償だからと言って容易に呼ぶのではなく、救急車はみんなの税金によって使うことができるということを理解してもらいたいです。

無償という言葉には、税金が隠されていることがほとんどです。この税金を誰が払うのでしょうか。それは大人です。仕事をし、一生懸命にお金を稼いだ人のお給料から税金がひかれます。税金は、自分のお給料の一部なので、多くの人は「税金」と聞くとあまり良い気持ちになれないと思いますが、これは私達の生活をより便利に、豊かにさせているということに気づかされました。

このように、税金は私達の気づかないところで、生活を支えてくれています。また、私たちが毎日使っている学校にも沢山の税金が使われているということを知りました。体育館やプール、実験器具など、今まで雑に扱ってしまったことがあり、今とても反省しています。また、改めて毎日の生活が当たり前ではないということに気づかされました。これから大人になったら、税金をきちんと納めて、今ある生活を大切にしていきたいです。

飯能市長賞

見えない力に支えられて

飯能市立飯能西中学校

三年 中 島 慧

私は二〇一一年、東日本大震災の直後に生まれました。ユースや両親の話から、あるとき多くの人が命を落とし、家や日常生活を失ったことを知りました。電気や水道、道路など、当たり前に使っているインフラが壊れ、赤ちゃん用のオムツや粉ミルクさえ足りなかったそうです。私は自分もその時期に育てられていたと思うと、胸がとても熱くなりました。

私の地域でも計画停電があり、母は私の世話にとっても苦勞したそうです。そんな中でも、国や自治体が支援物資を配り、インフラの復旧を急いだことで、多くの人が助けられました。最近になって、それらの支援には多くの「税金」が使われていたことを知りました。

震災の復旧支援や避難所の運営、医療や生活の援助など、目に見えないところで税金が大きな力を発揮していたのです。私は震災のあとに無事に生まれ、安心して育つことができました。それは多くの人の努力と、社会全体で集められた税金のおかげだと、今になって実感しています。

私の住む市では、高校生まで医療費が無料で、インフルエンザの予防接種も毎年無料で受けられます。私は扁桃腺が弱く、よく熱を出して病院に通っていました。肌も敏感で塗り薬が必要でしたが、医療費が無料だったことで母は安心して

私を病院に連れていくことができたそうです。

当たり前のように受けていた医療も、実は税金で支えられていると知ったとき、「見えない力」の存在に気づきました。病気になるっても「お金が心配で病院に行けない」とならないように、税金が私たちの健康を守ってくれているのです。

また、予防接種が無料で行き渡ることと感染の拡大を防ぐ効果もあります。自分のためだけでなく、家族や友達、地域全体の健康を守る仕組みでもあることを知り、税金の役割の広さに驚きました。

こうした支援は、社会で働く人たちが納めた税金によって成り立っています。一人一人が社会の一員として税金を納め、それがこまっている人の助けや公共のサービスにつながっているのです。だから私は、税金を「見えない力」だと感じます。

震災のときも、日々の生活の中でも、税金は私たちの暮らしを支えてくれています。道路や学校、公園や図書館など、普段利用している場所にも税金が使われていることに、最近ようやく気づきました。

これからの社会でも税金は大切な役割を果たすはずです。だからこそ、私は感謝の気持ちを持ち、自分にできることを見つけ、未来の社会に役立つ人になりたいです。

飯能県税事務所長賞

給付金か消費税減税か

飯能市立飯能第一中学校

三年 大草 里緒

今の日本では物価高により、だんだんと国民の生活が苦しくなってきた。そんな中、物価高への対策として国民に現金給付を求める声が与党内から上がっている。一方で、野党からは消費税減税を求める声が強まっている。また、与党は参院選直前に国民一人あたりに2万円から4万円を現金給付することを公約として掲げた。しかし、与党は敗北した。給付や減税について今後どうなっていくのか。私は今回、この作文でこれから政党はどのような対策をとっていくべきなのか自分なりに考えてみた。

給付について国民からはもらえるならもらいたいという意見が多かったが、その中でも参院選で大敗して無理ではないかなどの他の意見も上がっていた。しかし、多くの国民は給付よりも減税を行ってほしいと考えているであろう。どちらの対策にもメリット・デメリットはあり、給付は低所得者への支援ができる反面、一度限りだと効果を持続させることは難しくなる。減税は効果の持続は少し期待できそうだが、財源の確保は難しくなる。さらに両者ともやりすぎてしまえば国のお金が減ってしまい、将来的に日本は貧困国になってしまうかもしれない。

以上のことを踏まえて私は両者とも行うか、片方のみを対象者を限定して行うか、どちらかの方法で対策をすれば良い

と思う。今年度は、国の税收が72兆761億円で過去最高を更新したため、一度だけなら給付はできると考えられる。また、税金を無駄なことに使わないようにすれば、減税をしても本当に必要なことには使えると思う。両者とも行うことによつて互いのメリットを活かすことができ、デメリットを補うこともできるかもしれない。片方のみを対象者を限定して行うならば、国の経済への負担は少しは軽くなるだろう。例えば、全国民を対象とした一律給付ではなく、所得制限を設けて低所得者のみを対象として給付したり、それぞれの所得に合わせて減税の割合を変えたりすることが効果的だと思う。

ここまでたくさんのことを調べ、考えて書いてきたが、中学生の私にとつてはとても難しいトピックだった。様々な考え方があった。それに、もしかしたら給付も減税も実現しないかもしれない。けれど、今回調べて得たものは今の日本の状況を知ることにもつながったし、今後にも役立つと思う。税金が必要になる場面はたくさんあるから、少しでも無駄に使われている部分があるのならば、減らしていきたい。そのためには、自分から政治に参加して国を変えていくしかない。だから私も18歳になったら国政選挙に投票してその時にある課題をなくすきっかけを少しでも作れるようにしたいと思う。

私たちの暮らしと税

飯能市立飯能第一中学校

三年 小金井 玲 菜

「税」と聞くとどんなイメージがあるだろう。とられるもの、いやなもの、など、マイナスのイメージが思い浮かぶ。テレビでも、減税という言葉がいつも飛び交っているし、私も、買い物をするときに、義務だから仕方ないという思いで消費税を支払ってきた。しかし、税の作文を書くにあたり、税金はなぜ必要なのか、どんなことに使われているのか自分なりに調べてみることにした。

税金として国や地方公共団体に納められたお金は、予算に組み込まれ、私たちが、より豊かで安心できる生活を送れるように、様々な用途に使われている。

国の歳出の中で、一番多くの割合を占めているのは社会保障費だそう。社会保障とは国民の生活を支えるための公的サービスのことで、例えば、病気やけが、老齢などで、自分の力だけでは十分な生活が送れなくなってしまうとき、国が生活の保障を行ったり、病院での医療費の一部を国が負担してくれたりする制度などのことである。さらに、飯能市では子ども医療費といって高校生までは窓口負担が無料なのだという。とてもありがたいことだと思う。また、私たちが毎日通っている学校や設備、などの教育費にも多くの税金が使われている。だから私たちは、無償で教科書をもらい、勉強できるのである。そのほか、安全を守ってくれる警察や消防、

便利で豊かに暮らすための道路や水道整備など、私たちが、健康で快適に暮らすために、集められた税金が使われている。多くのことから、納められた税金が巡り巡って私たちの暮らしをよくするために使われていると思うと改めてすごい仕組みだと思う。税金は、お互い支えあうための思いやりと助け合いの会費のようなものだと言えるだろう。

そして、私が最も身近に感じている消費税は、社会全体で高齢者を支えるのにかかせない税金だ。以前から、日本は少子高齢化社会になるといわれており、将来の財源不足に備え、買い物をするすべての人から税金をもらおうと導入されたのが消費税である。法人税や所得税のように利益部分に課税される税金と異なり、消費税は景気に左右されにくく安定した税収を得ることができるからである。

確かに税金を安くすれば、一時的には得をした気分になるかもしれない。しかし、税から成り立っている社会保障費などの公的サービスがなくなれば、私たちは安心して生活することができなくなる。税金を納める人にとって、そのお金がどのように使われているか関心を持つことが大切だと思う。

現在、私の生活を支えているのは誰かが納めてくれた税金だ。不自由なく生活し、勉強できることが当たり前だと思わず、その税金を納めてくれた方々に感謝して、毎日を大事に過ごしていこうと思う。そして、社会の一員としての自覚を持ち、将来は気持ちよく税金を支払える大人になりたいと思う。

飯能市納税貯蓄組合 組合長賞

税のありがたさ

飯能市立飯能西中学校

三年 田 中 紫 桜

中学三年生になり、高校受験を控えた今、私は公立高校に進学するか、私立高校に進学するか悩んでいる。これまでは自治体が指定する小学校や中学校に進んできたが、これから自分の意思で学校を選ぶ必要がある。自分で選ぶからこそ、公立・私立を問わずさまざまな学校の特色に惹かれ、受験先を決めるのに迷っている。そこで私は、公立と私立の違いを調べてみた。

公立高校は県や市が設置しており、施設の維持や先生の給料など多くの面で税金が使われている。一方、私立高校は保護者の授業料で運営されており、国や県からの補助金という形で税金が投入されていることがわかった。

このことから、教育は税金という形で社会全体に支えられているのだと気づいた。もし税金による支えがなければ、授業料が払えず高校に進学できない人が増えてしまうのだろう。また、税金で運営されている図書館がなければ、私たちの読書の機会は失われてしまう。他にも児童館や公園なども税金で維持されているため、子どもたちは安心して遊ぶことができる。教育は未来を担う私たちを育てる大切なものだからこそ、税金によって安心して学ぶ環境が保障されているのだと思う。

振り返ると、私は小学校や中学校でも税金に支えられてき

た。無料で教科書を受け取ったり、エアコンや図書館を利用したりできたのは、すべて税金のおかげである。特に印象に残っているのは、小学校四年生の時に新型コロナウイルスの流行が始まり、タブレットが一人一台支給されたことだ。オンライン授業や課題提出、復習用の学習アプリなど、学校生活は大きく変わった。今ではタブレットを使うことが当たり前になっていくが、それも税金で支えられているからこそだと気づいた。当たり前のように思える環境の裏側には、社会全体の支えがあるのだと実感している。

世界には学びたくても学校に通えない子どもたちがたくさんいる。そのことを考えると、日本で誰もが義務教育を受けられる仕組みはとてもありがたなことだと心から思った。そして、それを可能にしているのは、税金を納めている人々と、そのお金を社会に必要な場所に使う仕組みがあるからだと感じた。

今後私は、高校生活だけでなく、その先の進学や社会生活においても、税金に支えられていることを忘れずにいたい。そして勉強や部活動に一生懸命取り組むことで、支えてくれている人々に少しでも応えたい。将来は私も税金を納める立場になり、今度は次の世代を支える側になりたい。さらに、日本だけでなく、世界の子どもたちに対しても、学びを得られるように何かできることがあれば取り組んでいきたい。たとえば募金やボランティアなど、身近なことから始めることもできるはずだ。教育の大切さを知った今だからこそ、誰もが平等に学べる社会づくりに少しでも関わっていききたいと思う。

会計係から学んだ税の大切さ

聖望学園高等学校

二年 萩原 さくら

私は今年、部活動で会計係を任されました。部費の出入りを記録し、必要な備品を購入するたびに領収書を整理する日々が始まりました。最初は単なる事務作業だと思っていましたが、予算の限られた中で必要なものをそろえる難しさや、お金の使い道を明確にする大切さを強く感じるようになってきました。そんなとき、顧問の先生から「税金も同じようなものだよ」と言われ税について興味をもつきっかけになりました。

税の第一の意義は、社会の基盤を整えることです。道路や橋、学校や病院、上下水道、警察や消防など、私たちが安全で快適に生活できるのは、税金のおかげです。例えば、雨の中でも滑らず歩ける舗装された歩道や、夜でも安心して通れる街灯の明かりも税で維持されています。もし税がなければ、私たちは学校に通うにも授業料を全額負担し、病院を受診するたびに高額な費用を払わなければなりません。

第二の役割は、社会の格差を縮め、困っている人を支えることです。高齢者への年金や、病気で働けなくなった人への生活保障、子育て支援など、税金は社会の弱い立場にある人々を守るために使われています。これは、誰もが予期せぬ困難に直面したときに助け合える社会をつくるための重要な仕組みです。もしこうした制度がなければ、困窮したときに頼る先がなく、多くの人が生活を立て直せなくなってしまうでし

よう。

第三に、税は未来への投資としての役割も担っています。科学技術の研究や環境保護、災害への備えなど、すぐに成果が見えなくても、将来のために必要な分野に計画的にお金が出られます。例えば地震や台風の被害を減らすための防災施設や再生可能エネルギーの研究などは、長期的な視点に立った税の使い方です。こうした投資は、私たちの世代だけでなく、次の世代の生活も守ることにつながります。

私は税を、「社会の会費」だと考えています。部活の会計係として学んだように、お金はただ集めるだけでは意味がなく目的に沿って適切に使われなければなりません。そして、その使い方を透明にし、説明できることも同じくらい大切です。将来、私が社会人になって税を納める立場になったときも、義務だからと無関心に払うのではなく、使い道や効果に目を向け続けたいと思います。

税金から考えるこれからの社会

聖望学園高等学校

二年 神岡 帆乃佳

私たちは普段の生活の中で、自然と関わっている。コンビニで買い物をするれば消費税を払っているし、道路や公園、学校や病院などの、身近にある公共サービスや施設の多くが税金に支えられている。今までは、こうした税金の仕組みについて深く考えることはあまりなかったが、これからの社会のあり方を学んでいくうちに、税金が果たす役割について少しずつ関心を持つようになった。

今、日本では少子高齢化が進んでいる。子どもの割合は減り、高齢者の割合は増えるという少子高齢化は、私たちの暮らしや将来にさまざまな影響を与えると私は考える。少子高齢化が進むほど、医療や介護、年金などの社会保障に必要な支出は増えていく。しかし一方で、それを支える働く世代の人口は減少していく。それにともなって税収も減っていくと予想される。このままでは、支える側と支えられる側のバランスが崩れ、社会全体に大きな負担がかかるかもしれない。

私たちが社会に出て働くころには、税金の負担が今より重くなっている可能性がある。また、限られた財源の中で、どの分野にどのくらい資金を使うかという判断も慎重に行われていくだろう。確かに、高齢者への支援は必要不可欠で、今後ますます重要になっていく。しかしそれと同時に、将来を担う、子どもや若者への支援にも力を入れていくことも必要

だと私は考えている。

たとえば、子育てしやすい環境を整えたり教育にかかる費用の負担を軽くしたりする取り組みに力を入れていくことは、長い目で見れば、社会全体の支える側の人を増やすことにつながる。子育てしやすい社会をつくるのが、結果として少子高齢化の改善にもつながっていくのではないだろうか。

税金というと、「取られるもの」「負担になるもの」というイメージが強いかもしれない。しかし実際には、私たち一人ひとりが社会を支えるための仕組みである。税の使い道によって、これからの社会のかたちは大きく変わっていく。だからこそ、若い世代である私たちが税について知り、考え、自分の意見を持つことが大切だと思う。

私たちはこれから、社会に出て支える側としての役割を果たしていくことになる。少子高齢化という大きな課題に直面するこれからの社会で、支える側になる私たちこそが税金の意義や使い道に関心を持ち、行動することが求められていると私は考える。

所沢税務署長賞

税金について

聖望学園高等学校

二年 伊藤 理沙子

皆さんは税について考えたことがありますか。私たち高校生は税金について考えることが増えてきました。私は、学校で使われている机や椅子、黒板がすべて税金で買われていると知ってとても驚きました。学校にある多くの机や椅子は誰が買っているのか、ふと感じたのがきっかけです。そもそも税金とは、国や地方自治体が社会を運営するために必要なお金であり、学校、消防、病院などの施設を維持するために集められています。

例えば、私たちが普段利用している学校は税金を使って成り立っています。もし税金でなかったら勉強を教えてくれる先生がいなくなり、物が壊れても修理できなくなります。また、教科書代も自分で負担することになります。他にも、災害時には税金が使われ、支援活動が行われることもあります。

基本的に税金は国民から平等に徴収されるしくみとなっています。そのため、今回の選挙でも消費税の減税、特に食料品の減税が争点の一つとなっていたのは記憶に新しいです。

高校生の私たちも消費税など知らず知らずのうちに税を納め、それが社会を豊かにすることに貢献しているのだと考え、これからの社会のためにもみんなが税金についてもっと関心を持つことが大切なのだと感じました。税金を払うのは国民の義務ですが、ただなんとなく支払うのではなく、そ

のお金が社会をより良くするために使われているのだと感ずることができれば、意味を持つものになります。そのためにも、私たちは税金がどのように使われているか注視する必要があります。私達の生活をより良いものにする為にも私達が納めた税金が、無駄に使われることのないように見ていくことが大事なのではないでしょうか。

将来、私達が社会人となり税金を納める立場になるまでに、もっと色々と税金について学んで、意識を高めつつ税を正しく納めて、正しく利用することがこの先の未来のカギとなっていくと私は考えます。そのためにも、税という難しい問題に背を向けるのではなく自分自身になにができるか一人一人の考え方が社会を変えていくと思います。税と向き合い、時には声を上げることも必要だと考えます。

飯能市長賞

支えられる側から支える側へ

聖望学園高等学校

二年 本橋 萌 紗

私が住んでいる市では、高校を卒業するまで医療費を助成してくれる制度があります。私は幼いころからよく体調を崩しがちで病院に行くことがよくあり、更に四歳と十二歳の時に手術を受けました。医療費の助成があったおかげで家族にそこまで大きな負担をかけずに治療ができました。安心して病院に行けたことは今の元気な生活につながっていると思います。

小学生の頃、病院に行った時に受付で大人達が治療費を払っている姿を見て「どうして私は払わなくていいの？」と親にたずねたことがあります。その時に初めて医療費を助成する制度があり、背景には税金があることを知りました。子供だから払わなくて良いではなく、社会全体に支えてもらっているのだと聞いた時、不思議な安心感を覚えたのを今も覚えています。それまで「税金」といえば、大人が嫌々払わされているお金というイメージが大きくありました。しかし今も制度に助けられていることや、今回作文を書くために改めて考えてみると、税金は誰かの生活を支える仕組みなのだと気づきました。道路や学校、公園や図書館など私達が当たり前のように使っている物も税金で支えられていると考えると、税金も身近で欠かせないものだと思うようになりました。もちろん、これから先の社会には税金の課題もあります。日本

では少子高齢化が進み、医療や年金にかかるお金が増えていくと言われています。そうすると今のような制度がいつまで続けられるのか、不安に感じることもあります。それでも子供が安心して治療を受けられる社会はとても大切です。なぜなら病気やけがをした子供がしっかりと治療を受けられることは、その子供自身の将来を守るだけでなく社会全体の未来にもつながるからです。だから、この制度はできる限り長く続いてほしいと思っています。

やがて数年後には私も社会人となり、今より多くの種類の税を納める立場になります。その時は「義務だから仕方なく払う」のではなく、「自分が支えてもらったように、今度は支える番だ」という気持ちで税金に向き合いたいです。幼い頃の経験があるからこそ、誰かの暮らしを守る一員として前向きに責任を果たしたいと思います。税金は普段の生活では目に見えにくいけれど、確かに私達を支えています。最初はあまり良いイメージを持っていなかった税金ですが、考え直してみるとそれは誰かの命や生活を守る大切なしくみでした。これからは、私自身も税を通して社会を支える側に立ち、安心して暮らせる社会を次の世代へとつないでいきたいです。

飯能県税事務所長賞

未来を支える税金の力

聖望学園高等学校

二年 今 江 心 優

私たちの暮らしには、当たり前のようにあるものが沢山ある。学校に通えること、怪我をしたときに病院に行けること、安心して道路を歩けること。それらの多くが、実は「税金」によって支えられている。

税金とは、国や地域が社会を運営するために、私たち一人一人から集めるお金のことだ。私は正直、今まで税金について深く考えたことはなかった。しかし、社会科の授業で税の仕組みを学び「税金ってすごい力を持っているんだ」と気づいた。

たとえば、学校教育もそのひとつだ。私たちが義務教育を無料で受けられているのは、税金が使われているから。先生方の給料や教科書、校舎の管理など多くのことが税でまかなわれている。もし税金がなければ、教育を受けられない子供も増えてしまうだろう。

また、災害が起きたとき避難所や復興支援にすばやく対応できるのも、税金のおかげだ。困っている人たちを助ける「安心の仕組み」として、税金は欠かせない存在だと思う。

一方で、税金には課題もある。たとえば、「どこにどれだけ使われているのが分かりにくい」という声がある。私たち若い世代が税に関心を持ち、正しく使われているかを見ていくことも大切だと思う。

将来私は社会の一員として働き、税金を納める立場になる。そのとき「嫌だな」と思うのではなく「未来をより良くするためのお金」として前向きに考えられるようにになりたい。税金はただの義務ではなく、皆の生活を支える「希望の力」だと思うからだ。

そして私は、税を納めるだけでなくその使い道にも関心を持ち続けたい。税金は、自分の知らないところでも大きな力を発揮している。だからこそ、何に使われているのかを知ることが自分の未来や社会のあり方を考えることにつながる。これからの時代、税金の仕組みや役割も変化していくかもしれない。でもその根本にある「支え合い」の精神は、いつまでも変わらず大切にされるべきだと思う。

私たち一人一人が税に関心を持ち、より良い社会について考えていくことで、税金はこれからも社会を支える力になっていく。税金の存在を当たり前と思わず、その価値を理解することから、私たちの未来は始まるのだと思う。



水 × 緑 × 人の出会い
森林文化都市
飯能市

Meets!  Hanno